

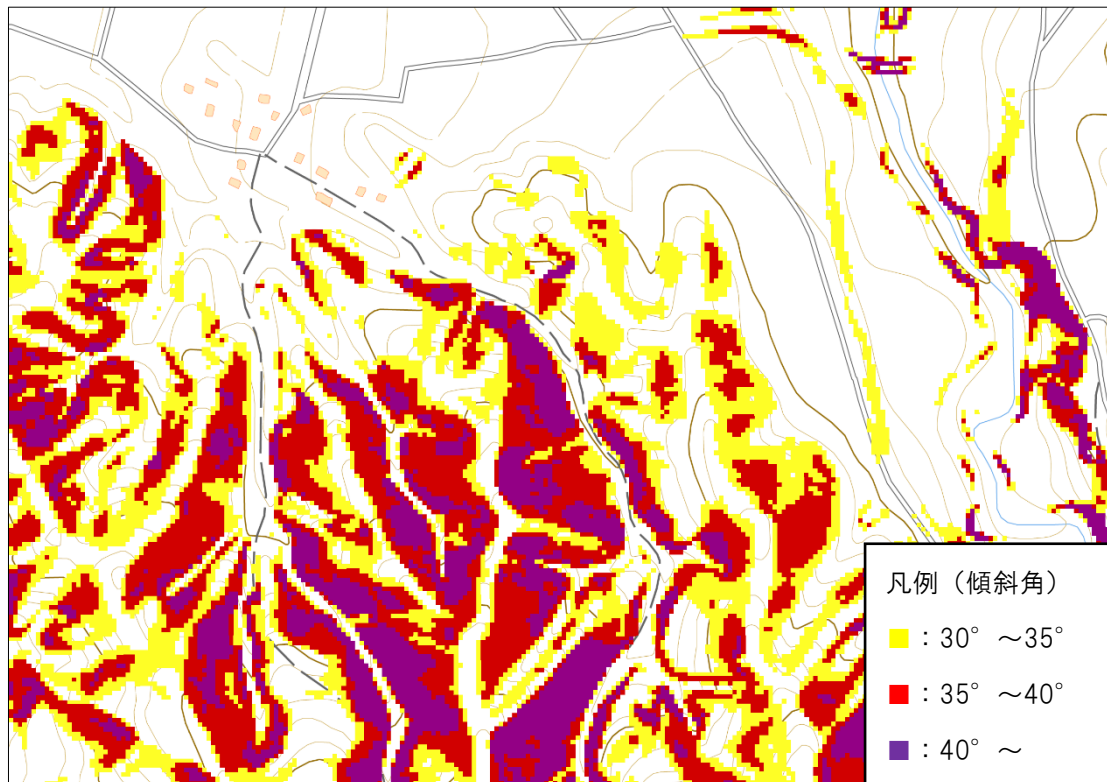
傾斜区分図

崩壊3条件の一つとなる「急傾斜」に該当する場所を把握するため、傾斜区分図を使用し、施業地の傾斜を確認します。

この図面において、傾斜が35°以上の場所では、皆伐や道づくりはできるだけ避けるようにします。

崩壊は傾斜が25°から発生し、30°から増えはじめ、特に35°以上ではその危険性が顕著です。

ただし、崩壊は25°から発生、地すべりは20°から発生すると言われているため、傾斜が35°未満の場所で施業する場合も、林地崩壊を発生させないよう、次項から説明する判断方法により、施業地が崩壊する危険性を確認します。



傾斜区分図の例

本図では地形の傾斜を段階的に色分けしています。